

# 琉球大学学術リポジトリ

## 日米関係（沖縄返還）43

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43838">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43838</a>

一八  
之  
九  
九  
公  
公  
法

極 秘  
無 期 限  
部 内 号

条約局長  
条約課長

① アメリカ局長  
② 参事官  
③ 安全保障課長  
④ 北米第一課長

防衛交渉(本回会議)  
(久保・カ-42会議)

45-1-20  
米北1.

20日防衛庁長官渡辺事務官(防衛課)は、米  
保長(米北1佐藤)に対し、18日に開か

れた久保・カ-42会議につき、別添の会議録  
等を転送すると共に、当庁の意向に次

と利説明した。

2. Command & Control

この点についての米側の説明は依然として明  
白でないので防衛庁としては、VJシ

7の話し合いにおいて、さらに追求してほしい

GA-6

外務省

237

2

と考えているが、自衛隊が完全に配備される前に  
領空侵犯が起きた場合に、米軍がその判

断めで行動をとることになっては困るので、この  
点につき米側とはっきりと話し合いをしておく

必要がある。(列挙)

2. 防空体制に関する日米側の申し入れについての

米側の回答は乏しく、カ-42は日米側の  
考案で、本国政府を説得する必要がある

との自信を注ぎかかっていた。

3. 十件、ホークの買取り問題については、具体

的な話し合いは行なわれず、現地調査を出来  
ず、早い時期に行なう旨の要望が

米側に出示された。

なお、ホークの価格は新案の75%、十件

米側の提示した

GA-6

外務省

3.  
のそれは35%という点で、何れにしても詳細を調査する必要がある。

4. 自衛隊展開に必要とされる施設工事については、那覇空港滑走路の工事を

早急に始める必要がある旨を申し入れたが、米側は軍側の調査については協力する。

工事の開始は返還協定批准後として欲い旨述べた。(なお、会議記録中、米側との協定締結時期が7月と想定される箇所において、本件については、staff levelの会議でさらに検討することとした。

5. 今後のスケジュールとしては、米側の回答待ちという点であり、2月中旬以降に米側の回答が来ると予想される。

米側は右記の通り、個々の問題を解決して、本件については、staff levelの会議でさらに検討することとした。

親  
米側  
米側  
米側

久保～カーチス会談 (第7回)

46. 1. 18

議題 (1) 防空責任の引継について

(2) 部隊展開の準備について

(1) 日本側から 昨年11月18日の第6回会談に

ついて米側から示された本件を、ハッケーとして

取扱う提案に対する見解として別紙を添付

する。第2頁のセオリ発言についても、このうち、

態は米側からみれば完全とはいえないところから

数ヶ月以内の不足が解消することもあり、当方

としては、この最大限の状態であって、この

引き継ぎの出来れば、幸いと思ふに付言した。

(米側から) 公式見解として別紙のステートメントを提示するともに、今週沖縄から米30砲兵旅団(大校・中)の高官を代表とする防衛関係のWorking Groupが来日し、日本側の提案を  
含めて防衛費化の引継問題を検討することになり、  
つていおり、私としては、日本側の提案に大きな支障があるとは考えない。これらのうち一つ一つの討議をつくすことを期待するともに、その結論を  
取りまとめてワシントンに持ち帰りたい。なお、私の不在中、中野一佐が日常業務をついでついでに引継  
つて話を進めてほしい。特に現地調査はなるべく早くお願ひする。

(日本側) 当方には異存がある資料の若干不足  
していきいます。  
(米側) 日本側の照会に対し回答がまだ段階  
きていり、これは十分承知しており、今回の私の帰米も  
こちらの情報取得を一つの目的としていり、  
そのなかには AC&W と SAMのほか、施設一般の  
問題も含まれる。  
(2) (日本側) 来年予算の査定に伴う当初概算  
計画及び遠送新の工事の開始につき別紙  
を3次及び4次のとおり発言した。  
(米日側) 滑走路工事の緊急性は承知していり、  
遠送掘立の米側承諾は7月と予想され、

今後以後の工事を着手しても間に合うてはならない  
 と考え、議会の承認前にかかわりの同取極め  
 をするのは迅速協定の承認に影響を及ぼすので換  
 えて、なお在沖繩の陸軍工兵隊の飛行場の土質  
 等の調査データをもつてのことも提供してやる。  
 (日本側) 米側の事情は了承する。この内  
 け要領技術的な点もあつて、施設関係者を  
 加えて今後 STAFF レベルで話し合いたい。

防衛秘第46-1号 3  
4枚つづり

秘

久保カーブス会談 防衛局長発言要旨

1. 沖縄防空責任の引継ぎについて  
 沖縄の防空責任については、1973年7月に当方が引  
 継ぎをなすものと考えている。ただし、ナイキ及び  
 航空警戒管制部隊については次のような状態にある  
 ことを承知願いたい。  
 (1) 地对空誘導弾部隊のうち、ナイキ部隊については  
 展開は完了しているが、3筒高射隊のうち2筒高射  
 隊は年次射撃を終了していない状態にある。  
 なお、ホークについては完全な配備が終了している。  
 (2) 航空警戒管制部隊については、人員の充足が  
 約60%程度であるので、人員が完全充足する  
 までの数ヶ月間は、4筒サイトのうち1筒サイトが一時的

秘

秘

的に運用中断する可能性があるがレーダーサイトの  
カバレッジからみて航空警戒管制上特に大きな  
支障があるとは考えられない。

2. 装備品の購入について

ナイキ、ホーク及びAC&W装備品については

現在沖縄において使用している装備品のうち動産

を購入することとした。なお、品目、数量及び価格

については現地調査のうえ協議することとした

た。

3. 当初展開部隊について

返還当初沖縄に配備すべき部隊として陸

海空合わせて約3,200人を返還後約6ヶ月以内

秘

防衛庁

(第1号)

秘

に展開する計画は、1971会計年度予算案においては

滑走路延長等の施設工事費を中心として所要の

準備措置が認められたので、これらの工事等が予定

通り進み、かつ1972会計年度において定員等に

（こと前提として）  
（部隊の展開規

模、展開時期について変更の必要はないと存する。

4. 返還前の施設工事について

返還前の施設工事の実施については、返還協定

の両国議会による承認前には原則として不可能で

あるとのことであるが、特に十八空港の滑走路延長

工事については部隊展開の時期から考えて返還

協定の承認前に調査工事を実施する必要がある

秘

防衛庁

(第1号)

秘

あるので、これについて特に既成をお願いしたい。

なお、細部については別途調整することとした。

秘



防防秘第46-3号

3

1 枚つづり

CONFIDENTIAL

18  
21 January 1971

USMILRONT Point Paper

Subject: Air Defense Planning (Curtis-Kubo Meeting)

- We are pleased to have the opportunity to review the progress made in planning for the transfer of air defense.
- In particular we <sup>are</sup> both pleased and impressed with speed and thorough manner in which your detailed planning group has pursued the planning task of assuming defense responsibilities within the period of one year from reversion (assuming mid 1972 or 1 July 72 R-date).
- The plan submitted by your planners is undergoing close examination by our planning group at Fuchu and in Okinawa. We note that your plan would achieve our objective of mission transfer at the end of the one year after reversion.
- Our preliminary review of the plan for the transfer of air defense has ~~not~~ <sup>no</sup> revealed any major problems or obstacles that would prevent us from continuing to develop the necessary details. There are only a few matters which we believe will require refinement or clarification. These center on:
  - 1) Command & Control Arrangements
  - 2) AC&W operational status at R + 1 year
  - 3) Services & Support during the transfer period to be rendered by US Forces in Okinawa
- We are hopeful that all points can be clarified by the defense planning group and that a mutually acceptable detailed operations plan can be developed by March to serve as a basis for the transfer of air defense responsibility.

CONFIDENTIAL

所附紙の46-3号 14  
2 100000

談 文

46-1

封

1951年11月11日

USUIKONT 大311 No. 200 (Print Paper)

標 題 : 防空計画 (7次大塚会談)

1. 御札は 防空校管のため計画の進展に關し 審議する機会を得たことを御返すものであります。

2. 特に 貴方の 御郵計畫の70%が 返還後10年以内におこな(返還日を1978年中頃あるは1978年7月1日と設想)所屬責任を引継ぐための 計画業務を遂行されるに於て 迅速かつ的確な要領を御札に之を交じり 感銘を蒙るものと存じます。

3. 貴計畫班から提示された計畫は 存中及び津總において 当方の計畫と同一(又は) 互に綿密な検討がなされております。

4. 貴方は 貴計畫が 返還10年後に 任務を移管するに當り 貴方の目的を成就するに必要とす (would achieve our objective of ) 指摘いたします。

4. 貴方における 審議の結果は、当該防空校管計畫について 大體の問題解決 點 障害は不可知なく 所要細部事項の改善を 遂げるうちに 対応がなされるものと認めます。



3122 1154-10

58.22

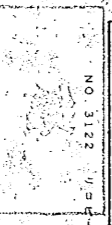


16 2

政府は透明化 (Transparency and Classification) の  
必要と見做する若干の事項の承認に同意する。

主要中心は :

- (1) 指揮及び統制の調整  
(Command & Control Arrangements)
- (2) 過去10年後における A&W の運用態勢 (Operational status)
- (3) 移管期間中において 在中標準 (お) 提供される  
サービス及び支援 (Services and support)
- 5. 加われば 防衛計画グループにおいて べきが明確に  
か、防衛責任移管のための基礎として 役立つための  
受容できる 継承運用計画が 3月までに進展 されること  
希望します。



NO. 3122 1/4 2215 ON

36x28

防防秘第46-2号

5

3枚つり

# 沖縄配備部隊展開計画

秘

項目		年度	47年度				48年度					
陸上自衛隊	才ノ混成団 沖縄警備隊 ホ-1高射群		編成	移駐		編成						
					編成		移駐		任務付与			
海上自衛隊	沖縄基地隊 沖縄航空隊			編成								
						編成						
航空自衛隊	南西航空混成団 航空隊等 ホ-1高射群 警戒管制群			編成								
				編成		任務付与						
								編成		任務付与		
							機ノシテヨク	7人	編成 (展開完了(人員80%))		人員完全充足	

返還想定日(47.7)

秘

中建设防空関係準備品の単価提示価格

26

品目	提示価格	旧単価	備考
1-2 地上装置	2,500円	20.6 億円	
ミサイル(144発)	42 /	16.6	(国産(西格))
計	13.1	47.2	27,000,000 億円
1-1 地上装置	6.2	22.3	
ミサイル(82発)	4.8	17.3	(HMP&国産価格)
計	11.0	39.6	約 140~150 億円
ミサイル指揮装置	0.3	1.0	
ミサイル関係計	24.4	87.8	
AC 装填準備品	6.5	23.4	
総計	30.9	111.2	

(注) ミサイル(144)は 当方希望数量に 単価提示率(西)

1) 算定した (組) 本 1-2 ミサイル(82)は 現在校計

中(本)。

2 組別品目(144)は 本則提示に当方所定(若干)を 意

加あり。



自備大隊航空機配置予定基地一覽表

隊	隊	配置場所
陸上自衛隊	水/混成団	千代田市
陸上自衛隊	中隊整備隊	〃
海上自衛隊	水-1高射群	知念空陸謀谷村小松
海上自衛隊	中隊基地隊	水-1小松
海上自衛隊	中隊機空隊	千代田
航空自衛隊	南西航空混成団	千代田
航空自衛隊	航空隊	〃
航空自衛隊	千代田高射群	千代田 知念
警戒管制群	警戒管制群	千代田 知念 千代田

ND 3121 / 5E-用

5E-用